

2018年度 第20回 深川市青少年力十夕交流訪問団報告書



2018年7月27日(金) ~ 8月11日(土)

 深川国際交流協

2018 20th Fukagawa Sister City Summer Program Report



Fri, 27 July ~ Sat, 11 August

 FUKAGAWA International Friendship Society

Participants Report

リーダー 内藤 春花(滝川西高校2年)

私はカナダに行く前に“自分の英語力で出来るだけ相手の方とコミュニケーションをとる”という目標を立てました。



平日はホストファミリーと話す機会があまりなく心配していましたが、休日はいろんな所に連れて行ってもらいインターネットが使えない状態が続いていたので自分の英語力を使って話さなければいけないと改めて自覚しました。聞かれたことに YES、NO 以外にワンセンテンス加えられたけど自ら自分の話を切り出すことは出来ませんでした。聞き取ることは出来たけどそれを単語で返すことしか出来ず、会話になってなかったと思います。(笑)自分のリスニングは自信がいたけどスピーキングは全然まだ力がついてないと思いました。



ホストファミリーとの休日は遠くまで連れていってもらったり、スポーツ観戦や映画も連れて行ってってくれたので楽しかったです！でも事前にたくさんメールをやり取りしたかったけど1回返ってきただけで、それ以上の連絡は帰国したあとしかこなかったのでは行く時は不安でした。そして、私は野菜が好きだけどほとんどお肉しか出ない家庭だったので日本から野菜ジュースなどを持って行った良かったなと思いました。湖で泳いだりすごい大きいポップコーンを食べたり日本ではない経験が出来て良かったです。カナダは夜が長くて21時とかでも明るくて夜って感じがしませんでした。研修ではSBOでの授業はサンドラ達が面白くてとても楽しかったです！5人のメンバーのみんなに個性があつていつも笑えたので充実した日々を送れました。カナダに連れて行ってくれた両親、市役所の方、それに関わってくれた人達ありがとうございました。



サブリーダー 太田 美空(一已中学校3年)

私は、この青少年カナダ交流訪問団でカナダに行かせてもらうのは2回目でした！なので自分の中でやりたい事、やらなきゃいけない事がハッキリしていました。2回目なのにカナダに行かせてくれた市役所の方々、小瀧会長にはとても感謝しています。1回目に行ったときは自分の気持ちをはっきり言えずに、自分自身にイライラしていました。もし、2回目行けるのならばよう！この英語も使える！と、1年中考えていました。今回は答えるときに yes、no の他にも一言付けよう！それが目標でした。



そのおかげで去年のホストファミリーにも、今年のみはすごく元気だね！と言ってもらえました！

そして団員みんな！はるなちゃんと一緒に花火見に行ってお泊りして色々な事をたくさん話した！さくらティンとはずっと一緒にいた！自由行動の時とかもめっちゃ話したね笑 お揃いのものもたくさん買って嬉しかったし、英語も上手だから心強かった！！なおちゃん！さくらんぼ食べてくれてありがとう笑 今度お金使わないコツ教えてね！！笑 やまとは男子1人で完全なるバシリだったけど女子の言うことちゃんと聞くあたりほんとにいい子だと思うよ笑 たくさん意地悪してゴメン笑笑 本当に楽しくてすごく素敵な経験になりました！また何か機会があればいろんな所に行ってみたいです！カナダにいるホストファミリー、家族のみんな、一緒にカナダに行ってくれた団員、唯衣さん、企画財政課の人達、携わってくれた皆さん、本当にありがとうございました！！生きてた中で1番最高の思い出になりました♥



高橋 大和(深川中学1年)

僕は去年カナダに行って自分の英語が割りと通じたので今回も通じかかと思っていただけほとんど通じなくて、最初に車に乗ったときに会話がほとんど続かなくて気まずい雰囲気がしばらく続いて「いっつおーけ」と

言われました。そして英語力がまだまだ足りないと思いながらホストファミリーの家に向かいました。家は結構でかくて家の中の説明をされました。シャワーが2つあることに驚きました。日本から持ってきたお土産を渡すとすごく嬉しそうでした。特にけん玉と白い恋人は人気がありました。その夜、寒さと時差ほけのダブルでこれだったのでほとんど寝れませんでした。朝起きてタオルケットが欲しいと言ったらベッドに敷いてあるのがタオルケットだと言われました。一応もう1個もらってきました。初日は驚きがたくさんありました。その中でも一番は自分の英語力のなさに驚きました。その他に印象に残ったのが2つあるので紹介したいと思います。

1つ目はトランポリンパークに行った日です。家のトランポリンの1.5倍くらい飛べて結構楽しかったです。ホストファミリーに頼んで別の日にもう1度連れてってもらいました。その日は3時間半くらい飛んでいました。そこで2人の友達ができました。名前が発音良すぎて聞き取れませんでした。自分の名前は伝わったっぽいので良かったです。

2つ目はメジャーリーグを見に行ったことです。引率の唯衣さんと一緒に行きました。球場がでかくて驚きました。どのチームが戦っていたかはわかりませんでした。みんなテンションが上がっていました。僕も終始興奮していました。インニングの合間合間にカメラが何人か人を映していました。僕も1回だけ映ることが出来ました。Wi-Fi もあったので家族に写真を送っていました。あっという間に9回までいってグラウンドを走れると聞いてウキウキしながら走れるところまで行きました。一塁からホームまで走りました。爽快でした。その後みんなで夜ご飯を食べに行きました。僕はそんなにお腹が空いていなかったのでフライドポテトしか食べませんでした。帰りは疲れて爆睡していました。家に帰るときに少し迷子になってなんとか家に着いたらもう暗かったです。僕の英語力ではまだまだ足りないからこれからは英語の勉強を今まで以上に頑張っていきたいと思っています。



★Chaperon Reports

What We Learned From Canada

団長・引率 水上 唯衣

はじめに

4月はじめ小瀧会長より引率のお話をいただいた時は、担当業務であった新規 ALT の着任日と重なっていたため一度はお断りをさせていただきましたが、その1ヶ月後やはり引率者がいないということで再度お話しいただき、職場のご理解・後押しもあり、引率を引き受けることを決めました。

父が英語の教師をしていたこともあり小さい頃から多くの ALT が毎週のように家に遊びに来ていたことがきっかけで、英語を勉強し始め、英会話教室に通うようになり、次第に国際交流への関心が高まりました。外国人は自分の国や文化に誇りを持ち、またそれを積極的に異国へ伝えようとする姿勢に、私はどんどん惹かれていったのです。グローバル化が進むいま、異文化交流が必要不可欠であることは言うまでもありません。2週間におよぶカナダ訪問は、今回の私自身の目標でもあった『異文化交流の架け橋となる』における第一歩の何かを見つけられたように感じました。

【事前研修】

最初はぎこちない雰囲気だった団員との事前研修も、2回目にはすっかり打ち解け、終始にぎやかなムードでの研修であった。一人ひとりが、相手のキャラクターをすぐに掴みとり溶け込んでいこうとする様子を見て、これからの2週間に有意義で充実したものにしようとする意識の表れだと感じていた。団旗作成やパフォーマンス練習をはじめ、限られた日程の中で必要最低限な英会話練習、そして小瀧会長や前引率者からの貴重なアドバイスを受け、非常に内容の濃い事前研修を終えた。



▲パフォーマンス練習の様子

私自身も初海外ということで、出発が近づ

くにつれ知識不足と準備不足にあたふたしていたが、前引率者の方から“まずは引率者が楽しむこと！”という言葉をいただき、大好きな英語に毎日触れることができる幸せと、姉妹都市アボツフォードで多くの経験ができるという期待に胸を膨らませ出発日を迎えた。

【入国・ホームステイ】

長時間の移動を終え、もはや疲れ切った様子の団員も、バンクーバー空港に降り立つと、日本とは違った異国の雰囲気に興奮しながら、最初の難関と言われていた入国審査に向かった。今年はタッチパネルの認証システムで審査ができたのは私のみで、団員達は入国審査用紙に記入し、審査官による審査を受けた。アボツフォードに到着すると同市教育委員会(以下 SBO)の前で数名のスタッフとホストファミリーが“Sister Cities”の旗を持って出迎えてくれていた。今年は、到着した翌日から各自ホームステイファミリーと土日を通ぐすという日程だったため、心配はあったが夜には必ずその日の団員の行動・様子、明日の予定を聞くようにしていた。私のホストファミリーは、年配の夫婦・大学生の息子の3人家族ですぐにコミュニケーションもとれ、カナダらし

いお土産が買えるマーケットや、湖、お寺など多くの観光地を案内してくれた。疲れと不安、時差ボケで寝られない日々が続いたが、それ以上に毎日大きな刺激がありとても充実していた。ホストファミリーもまた、カナダ



▲ホームスティ宅の素敵なガーデン

合い精神が多く見られた。

の様々な文化・習慣を教えてくれた。私のホームステイ先の Blue Jay street 周辺は特にインド系移民が多く、ターバンやサリーを巻いた住人をあちこちに目にした。彼らは宗教に熱心であり、教会やお寺の周りは毎日朝早くから多くの人で溢れていた。また、カナダはこの時期は雨が降らず、日が落ちるのも遅く 21 時を過ぎても明るい。犬を連れて散歩をしたり、庭で近所の人と話している様子から街の暖かさを感じた。日本では、近所トラブルから様々な事件を引き起こすケースも多いが、カナダでは全くと言って良いほどそのような問題はなく、駐車スペースやゴミの管理において、譲り合い・助け

【カナダを知る】

カナダ 6 日目に、京都ピクトリアを訪れた。歴史的な背景から英国の影響が色濃く残る街並みには花が溢れ、ダウンタウンには港を囲むように美しい遊歩道が整い、多くのヘリテージビルを活かした店が立ち並ぶなど、優雅な街並みが魅力的であった。深川市出身の星野桂子さん夫婦が日本料理レストラン KOTO でおもてなしをしてくださり、団員一人ひとりにカナダでの様子を聞いたり、色々なアドバイスをしてくれた。

三連休 2 日目には、6 月に深川市を訪れた市民訪問団の方が、アメリカ・シアトルヘメジャーリーグ観戦に連れて行ってくれた。アメリカ入国には約 1 時間かかり、車を下りるとそこにはカナダとはまた違った人々の雰囲気・街並みが広がり、アメリカは非



▲アボツフォード市民訪問団のメンバーと

常にシビリアな国だというのが直感であった。スタジアムと観客、そしてゲームの迫力に圧倒され、野球観戦の大好きな私にとっては率直に大変嬉しく感動の 1 日だった。連休最終日には、深川市でもおなじみのエアードアボツフォード市内を案内し、たくさんのお話を教えてくれた。深川市とアボツフォードの交流のために、私たちはアボツフォードを知る、そして深川市を伝える。それに繋がる貴重な情報が詰まった 1 日であった。



▲Safeco Field (アメリカ・シアトル)

カナダにはホームレス(現地の人は“street”と表現する)が非常に多い。日本のホームレスとの一番の違いは、カナダのホームレスは非常に物乞いをしてくる点。ホームレスと一概に表すが、刑務所に長い間入っていたり、薬に手を出したなどを理由にホームレスにならざるを得ない人、絵や小物を作りそれを売っているホームレス、ホームレスに変装してお金・物を集めている人、種類も実態も実に様々だった。しかし、カナダではホームレスは決して飢え死にすることはないようだ。なぜなら、教会に行けば食事は提供してもらえるし、毛布や着るものももら

える。ホームレスに優しい国なのかもしれない。その反面、カナダでは一度ホームレスに落ちると、どんなに努力をしても二度と元のように暮らせないという。何も分からない人間を一から育てる日本のような文化はなく、実力と経験の国カナダを象徴しているのではないだろうか。

一方、外国人はフレンドリーというイメージを持っている人は少なくないと思うが、カナダではあらゆる場面で見知らぬ人



▲店員さんもみんなフレンドリー

同士が会話を楽しんでいる様子を目にする機会が多く、想像以上に驚きがあった。スーパーでレジを待っている時や、レストランなどでも隣にいる人が気さくに話しかけてくる。もちろん私のホストマザーも誰にでも話しかけ、その日の街の状況(あの道は渋滞していた、あの店で何を安売りしていたなど…)を共有していて、非常に素敵なコミュニケーションであると感じた。日常生活の中でこれだけのコミュニケーション・情報共有ができ、人々が会話を楽しむ場面があるということは、極端な例になるが、例えば災害が起きた時でも、助け合う力が自然と強くなり、街の団結力に繋がるのではないかと感じた。このように 2 週間の中で、多くの人々と触れ合うことにより、たくさんのカナダ豆知識を知ることができた。その一つにカナダの高速道路のほとんどが無料であるが、日本とは違うと尋ねると、近年では新しく高速道路や橋が作られた場合、はじめは有料として費用を集め、その工事費用を賄い終わった時点でその高速道路は無料化されるケースが多いとのことだった。非常に合理的であると感じた。

【異文化交流の架け橋】

アボツフォードで日本人学生の受け入れなどを行っている鈴木悦子さんと、市内のカフェでお話しすることができた。深川市のこの訪問団派遣は、日本各地の他の学生団体と比べても 2 週間と長く大変豊富な研修プログラムだということを話してくれた。深川市のこのプログラムがこの先も続くよう、異文化交流の重要性、目的を明確に引き継いでいかなければならないと感じた。



▲お土産を喜ぶエリザベス、サンドラ 国際交流の場へ参加し世界を広げていくことが重要であると感じた。相手の



▲ウエルカムパーティーにて

文化・価値観を受け入れ、どのように共生させ、心豊かな交流とより良い関係を築きあげていくかが重要であるがゆえ、他国へ実際に足を踏み入れることがその第一歩になるであろう。

さらに、姉妹都市の絆の強さを実感できた 2 週間でもあった。毎日団員へカナダのことをたくさん伝えようとする様々なプログラムを用意してくれた SBO のサンドラ、エリザベスをはじめ、市民訪問団のメンバーも「日本食が恋しいかと思って」と稲荷寿司やおにぎりを作ってウエルカムパーティーに持って来てくれた。また、2017 年にアボツフォードのブラウン市長をはじめとした公式訪問団が深川市を訪れた時に寄贈した書道の作品を、市役所横のホールの一丁目立つところに飾ってくれていた。現在まで多くの方が築きあげてきた姉妹都市の絆と歴史を目のあたりにし、非常に心打たれるものがあった。

【引率者として】

2週間での引率者の役割をあげると、移動時の公共交通機関の手配、市長表敬訪問時のアシスタント、SBO 担当者との毎日の打ち合わせ、ホストファミリーとのやり取り、そして今年目標である Always be challenger に向かって挑戦する団員の手助けをすること。決して簡単なことばかりではなかったが、率直な一番の目標は、団員全員を無事に親の元へ返すことであった。事前研修で一人ひとりの体質を把握し、乗り物酔いなど小さなことから気遣い、体調面を配慮するようにした。誰ひとり大きな怪我・病気もせず、元気に帰国できたことが大変嬉しかった。予定通り日程をこなすことが重要であることは分かっていたが、その日の気温や団員の疲れ具合も考慮しながらサンドラと1日のプランを再考査し、臨機応変に対応できたと思う。その年その年に団員の色があるため、引率としていかに団員に溶け込みそれを理解できるかが、充実した研修内容に繋げる大きな鍵になると感じた。



▲ホワイトロックにて

一方、休日のホストファミリーとの過ごし方だが、その日の朝までホストファミリーがプランを決めてくれない、教えてくれない団員が多かったため、今年のように三連休がある場合には、事前にホームステイファミリーにプランを立ててもらい団員の予定を把握できると、さらに効率的で内容の詰まったものになると感じた。

～団員メンバーへ～

リーダー 春花、サブリーダー 美空、団旗担当 桜良、パフォーマンス担当 大和・菜央、この5人の団員の引率ができただけを本当に嬉しく思います。ここ数年の引率の方と比べると年齢が若く(皆からはおばさん扱いでしたが…)非常に頼りなかったと思います。カナダへ到着してすぐに各ホームステイ先に向かうみんなの姿は不安がいつぱいで、寂しげな様子でした。しかし、数日後にはホストファミリーと笑顔でコミュニケーションを取っていて、迎えに来たホストファミリーのもとへどこか安心した様子で帰っていく団員の後ろ姿は大きく、立派なものでした。5人にとっては、これからの学生生活、そして社会人になる時に、今回経験したことが必ず自信になり成長の糧になると信じています。大きくいろんなことに挑戦してください。そして、英語を好きになり(嫌いにならず)、これからも少しでも国際交流の場に参加してくれたらと思います。私もまだまだ人生経験が足りないもので、これ以上何もアドバイスできることはありませんが、5人と一緒に過ごした中で、私自身もたくさん成長さ

せてもらいました。友達のようにたくさん慕ってくれて、たくさん私をいっしょに遊んでくれて(笑)、楽しく充実した日々をありがとう。

おわりに

第20回深川青少年カナダ交流訪問団の引率として大変貴重な経験ができたこと、このような機会を与えてくださった多くの方々へ感謝しています。大学4年間、アメリカ・カナダを中心に異文化交流について学んできましたが、日本から出たことのない私が想像していたカナダ、異文化交流は、単に薄っぺらい言葉と理屈だけの思考に過ぎませんでした。実際に足を踏み入れてみて見えてきたカナダ、そこには前述したように想像をはるかに超える人々の習慣・文化の違いがありました。国境を越えて人々が共生できる世界には、新たな発見や希望、挑戦が待っていると思います。だからこそ、深川市のような小さな街、そして子どもたちからでもできる国際交流が重要であると考えます。姉妹都市アボツフォードと深川市の関係がこの先も継続しより充実したものになるよう、この経験と団員一人ひとりの挑戦を活かした取り組みをしていきたい。



Sharing Our Memories

